

分水路だより

平成27年 5月 1日号 (No.1)
国土交通省北陸地方整備局
信濃川河川事務所
E-mail shinano@mlit.go.jp

回
覧

大河津分水路は、大正11年（1922年）の通水から93年が経過しました。その間、越後平野は、日本有数の穀倉地帯に変貌し、新幹線、高速道路の開通を可能にするなど、この大河津分水路は、日本海側の中心都市として発展する新潟の安全・安心と地域経済・産業活動の発展を支えてきました。しかし、近年の降雨の変化を踏まえると大河津分水路の抜本的な改修は必要であり、平成27年度より事業着手することとなりました。

『分水路だより』は、大河津分水路の抜本的な改修に関する情報等を広く地域の皆さまへお伝えしていくために発刊しました。

末永く皆さまと共にあり続けたいと願っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

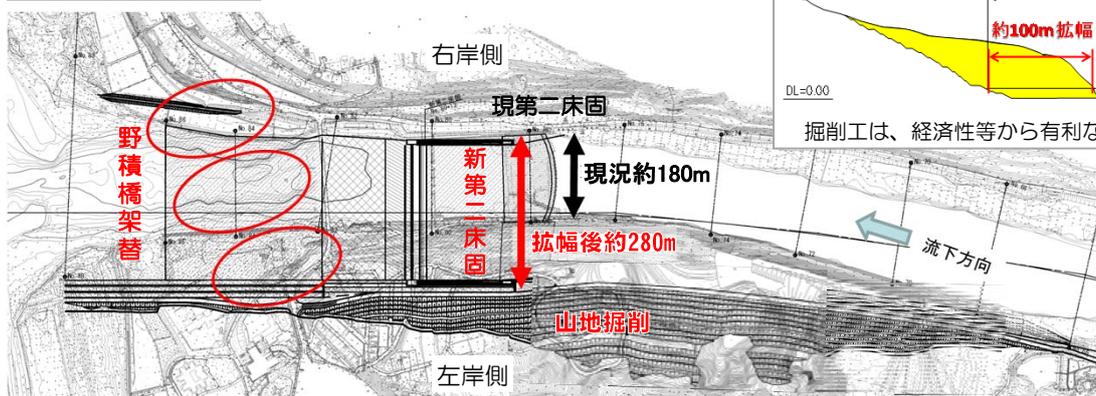


大河津分水路河口部（平成25年5月撮影）

大河津分水路の抜本的な改修に着手（事業の概要）

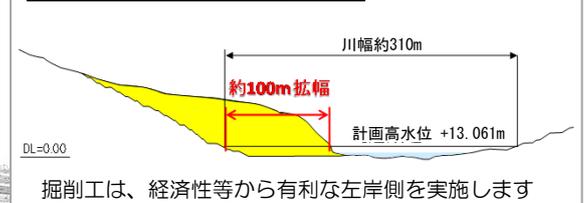
平成27年度より新規事業（4月9日に予算成立）として大河津分水路の抜本的な改修に着手することとなりました。大河津分水路の抜本的な改修は、課題となっている流下能力の向上や河床の安定等の対策として、河口山地部掘削、第二床固の改築、野積橋架替工等を総事業費1,200億円、事業期間は平成27～44年度の18年間で実施することを予定しています。

大河津分水路平面図



※各施設の構造等については、新規事業採択時評価時に想定したものであり、今後変更となる場合があります。

大河津分水路7.4kの横断面図



本年度から概ね13年間で第二床固の改築及び床固下流区間の拡幅掘削を完了させることを予定しており、この段階で平成23年7月に発生した新潟・福島豪雨による洪水と同程度の洪水を安全に流すことが可能となります。更にその後5年間で、第二床固より上流部分の掘削を完了することで、河川整備計画の目標とする流量を全区間で安全に流すことができるようになります。

表 大河津分水路改修事業の全体工程（計画）

	H27 1年目	H28 2年目	H29 3年目	H30 4年目	H31 5年目	H32 6年目	H33 7年目	H34 8年目	H35 9年目	H36 10年目	H37 11年目	H38 12年目	H39 13年目	H40 14年目	H41 15年目	H42 16年目	H43 17年目	H44 18年目
用地取得																		
掘削工																		
新第二床固																		
現第二床固 切下げ工																		
野積橋 架替工																		

※上表は、新規事業採択時評価時に想定した工程であり、今後変更となることがあります。

大河津分水路改修の初年度となる平成27年度の予算は13億6千6百万円で、調査設計、拡幅掘削のための用地取得等を進めてまいります。



用地測量や物件調査を踏まえ用地協議を行ってまいります。

TOPIC

第80回大河津分水殉職者慰霊式を開催

大河津分水殉職者慰霊式は、明治42年に始まった大河津分水路工事と維持管理作業中に殉職された100名の慰霊として、大正13年に第1回目の慰霊式を実施し、去る4月18日(土)に実施した慰霊式は80回目となります。

慰霊式には、流域の市長、国会議員、県・市議会議員の方々等が出席され、大河津分水路の改修への期待やこれからの工事の安全祈念等のご挨拶を頂きました。



式典状況

シリーズ：大河津分水に尽力した者

「分水路だより」では、大河津分水路に尽力された人々をご紹介します。今回は大河津分水路の自在堰の補修工事に尽力された『青山 士』の経歴を、以降はエピソード等を紹介していきます。



青山 士(あおやま あきら、明治11年～昭和38年)

静岡県磐田市生まれの土木技師で、中央アメリカのパナマ運河工事に携わった唯一の日本人です。

明治43年にパナマから帰国後、荒川放水路事業に従事し、完成後の昭和2年6月からは大河津分水路の補修工事に新潟土木出張所長(現在の北陸地方整備局長)として尽力しました。

【大河津分水路の改修に関する 問い合わせ窓口】

○改修事業の設計・計画について:計画課 Tel 0258-32-3245 ○用地取得について:用地課 Tel 0258-32-3022

〈信濃川河川事務所HP〉 <http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/>

〈信濃川大河津資料館HP〉 <http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/ohkouzu/index.html>